

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：石狩地区
- 2 事例報告学校名：千歳市立末広小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 高橋 真
- 4 キーワード：アイヌ文化学習・特色ある教育活動・地域の教育資源の活用 等

1 はじめに

本校は、千歳駅から北に1.8キロほどの住宅地に位置する児童数470名程の中規模校である。本校の特色ある教育活動の1つに「アイヌ文化学習」がある。平成8年から、生活科・総合的な学習の時間に導入し、発達段階を踏まえ系統的な教育課程を編成している。指導計画の工夫・改善を重ね、現在は6年間で109時間のアイヌ文化学習を実施している。

アイヌ文化学習のねらいは「自然、命を大切に作る心、人が自然と関わっての生き方を学ぶ」ことである。千歳アイヌ協会・(財)アイヌ民族文化財団をはじめ地域の団体からゲストティーチャーを招き、「本物を学ぶ」中で、ふるさと千歳の自然、歴史、伝えたい心や文化などを、体験的に学ぶことを大切にしている。また、平成8年に地域や保護者のご協力を得て校内に設置した「チセ」(アイヌ民族の伝統家屋)は、授業への活用以外に参観者や希望者に公開している。

学年	目 標	体験学習の内容		地域素材 ゲストティーチャー	テ ー マ
		(関連)単元名	主な学習活動(時数)		
1 ⑧	・地域の人々と進んでかかわろうとする。 ・アイヌ民族を知り、遊びや歌を通して、表現することの喜びを持つ。	【生活科】 「わくわくどきどきしょうがっこう」 「きせつとなかよしはるなつ」 「たのしさいっぱいあきいっぱい」	〈口承文芸・民具〉 ・チセたんけん ・ウポポ(座り歌)、ホリッパ(輪踊り) ・アイヌ民話絵本の読み聞かせとトンコリ(弦楽器) ・チレクテト(笛)遊び	(財)アイヌ民族文化財団 アドバイザー 延べ11名 (以下、アドバイザーと表記)	口承文芸  遊び
2 ⑨	・地域の草花や人々のくらしをすすんで調べようとする。 ・自然物を使って遊び道具を作り、楽しく遊ぶことができる。	【生活科】 「まちがだいすきたんけんたい」 「えがおのみみつたんけんたい」 「作ってためして」	〈口承文芸・民具〉 ・ウポポ(座り歌)、ホリッパ(輪踊り) ・ユカラ(アイヌ民話)を聞く ・アイヌ民族の遊び ・ポンアイ(小さな弓)づくり	アドバイザー 延べ14名	
3 ⑫	サケ漁やサケ料理の体験活動を通してアイヌ民族の暮らしの知恵や工夫がわかる。	【総合的な学習の時間】 「サケと千歳川」	〈アイヌ語・衣食住・狩猟〉 ・サケ漁(マレク漁とサケの解体・利用) ・サケ料理(チュポオハウ) ・アイヌ語地名 ・1年間のまとめ・表現	アドバイザー 延べ12名 サケのふるさと千歳水族館	自然(環境) 命 食 栽培
4 ⑬	シブシケフ(イナキビ)の栽培や団子づくりを通して、アイヌ民族の知恵や工夫がわかる。	【総合的な学習の時間】 「シブシケフ(イナキビ)・アハ(ヤブマメ)の栽培」	〈衣食住・栽培・民具〉 ・アイヌ民族の保存食・交易について ・シブシケフ・アハの栽培の栽培・収穫 ・シト(イナキビ団子)づくり ・1年間のまとめ・表現	アドバイザー 延べ11名 開拓記念館 開拓の村	
5 ⑯	地域の自然を素材とし、伝統的な技術の生かされた生活用具等を作ることで、アイヌ民族の知恵や工夫を感じ取ることができる。	【総合的な学習の時間】 「ニベシニ(シナノキ)のひもづくり」	〈衣食住・栽培・民具〉 ・木からできている生活用具さがし ・シナノキ樹皮繊維とり出し ・木彫り(鹿の呼び笛) ・カエカ(シナノキ皮の糸織り) ・飾り(シリキ・ペンダント)づくり ・1年間のまとめ・表現	アドバイザー 延べ13名 千歳市森林組合	暮らし 文化
6 ⑳	ムックリづくりの体験や歴史学習を通して、アイヌ民族の工夫や苦勞を考え、6年間の学習をまとめることができる。	【総合的な学習の時間】 「ウポポイへの道」  「アイヌ刺しゅうをしよう」	〈衣食住・民具・人権〉 ・ウポポイ見学の事前調べ学習 ・アイヌ民族の歴史と人権 ・ムックリ作りと演奏 ・アイヌ文様の刺繍、コースターづくり ・アイヌ文化学習まとめ	アドバイザー 延べ13名  民族共生象徴空間ウポポイ(修学旅行)	人権

※ ○内の数字は指導時数

2 実践の概要【例】「シブシケフ(イナキビ)・アハ(ヤブマメ)の栽培」第4学年

時期	学習内容	時数	活用する素材・人材	留意点
5月	1. シブシケフの栽培 ・畑おこし、肥料まき ・保存食にする作物の採集や栽培について ・シブシケフ、アハの種まき	4	(財)アイヌ民族文化財団アドバイザー(以下、アドバイザー) シブシケフ、アハ	・ゲストティーチャーから、アイヌ民族の食文化、特に保存食や栽培についての話を聞き、採集方法や量、栽培方法などに着目させ、課題設定を行う。
9月	2. 世話と収穫方法 ・ピバ(カワシンジウガイ貝殻の穂ちぎり収穫具)、キラウシツケ(鹿角製の掘り具)の使い方 ・「アハ掘りの唄」	6	アドバイザー ピバ キラウシツケ	・収穫まで、草取りや水やりを継続する。 ・鳥害防除をする。 ・収穫時期や収穫方法、調理方法、保存方法などについての児童の疑問を大切にすること。
10月	3. シト(団子)づくり ・脱穀、製粉 ・「イウタニの唄」 ・シト(団子)づくり ・試食	4	アドバイザー ニス(白) イウタニ(杵) 調理器具、調味料等	・アイヌ民族の作業歌を歌いながら、脱穀し、アイヌ文化に触れる。 ・昔の製粉、調理の工夫や苦勞を考えさせる。
11月 12月	4. アイヌ民族の食文化の学習のまとめ	8	文献 インターネット 端末	・課題に基づいて、体験活動からわかったことやさらに調べたことをまとめる。 ・ポスターセッションを行う。



チセで保存食についての説明を受ける



ピバを使ってシブシケフの穂を刈り取る



北海道ユネスコ大会での学習成果発表



シブシケフの粉からシトをつくる



ニスとイウタニで、唄いながら製粉する

3 まとめ

本校では、平成24年度から運動会に千歳アイヌ文化伝承保存会の皆さんを招き、全校児童と地域・保護者の方々1,000人以上で、「全校ホリッパ(輪踊り)」を踊っている。

今年度は、9月に千歳市の全小中学生の給食(9,000食)に初めて「アイヌ民族伝統料理」が出された。本校では、メニューの一つ、「ユクカツ(鹿肉のカツ)」の生産者を招き、5年生で製造過程での工夫や苦勞、命をいただくことへの感謝等についてのお話を伺った。11月には姉妹都市の米国アンカレッジ市より、アラスカ先住民の方々来校し、関係者とともに、本校4年生が文化交流を行った。

教育課程の改善を重ねながら、30年近く「アイヌ文化学習」を継続してきたことにより、子どもたちに、次のような力が育ってきている。

- ・ふるさと千歳に親しみ・知ろうとする態度、多様な文化や歴史に誇りをもつ心
- ・食物や生活用具の材料を得る自然に感謝し、大切にしようとする心
- ・他者に対して優しい気持ちで接しようとする心や自己肯定感

今後もアイヌ民族を多面的に学ぶ活動を発展させ、子どもたちに未来にも生きる資質・能力を育んでいきたい。

